

令和元年度学校評価アンケート結果の分析

1 生徒対象アンケート結果から

全般について各学年より

〈 1 学年 〉

全般的に肯定的な回答が多く、特に「自主・自律」の実践に関する規範意識、生徒指導、学校行事、部活動、環境整備などの項目をみると高い数値である。

一方で、授業への評価に比して、授業以外での学習習慣や進路を意識した学習などの項目は低い数値であり、今後の学習及び進路指導への課題と感じている。

〈 2 学年 〉

全体的には、肯定的な回答が多かったように感じられる。授業に関する項目で、6割以上の肯定的な回答がある反面、学校以外での学習習慣ができていないと自ら感じている生徒が多数いた。

〈 3 学年 〉

多くの項目で高い満足となった。1年次より、学年職員の共通理解のもと計画的な指導をしてきたことが奏功しているのではないか。場面ごとの目標設定や生活指導の線引きを明確にすることで生徒もそれらをよく理解することができ、前向きな学校生活を送ることができたものと考えられる。

1 私は、校訓「自主・自律」を意識して学校生活を送っている。	83.3% (+1.1%)
--------------------------------	---------------

ここ3年間の肯定的評価の数値を見ると、81.8%→82.2%→83.3%と、80%程度に落ち着いている。学校の校訓や方針が生徒に浸透しており、校訓を意識して学校生活を送っている様子が見えてくる。

学習について

4 私は、授業内容がよく理解できる。	68.4% (+1.4%)
5 私は、授業以外での学習の習慣が身についている。	48.0% (-1.2%)
6 先生は、生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫している	68.3% (-1.6%)
7 先生は分かりやすい教え方をしている。	66.3% (-2.1%)
8 授業は基礎学力の定着に役立っている。	79.8% (+1.1%)
9 授業は応用力の伸長に役立っている。	55.0% (-4.5%)
10 授業は私の知的好奇心を満足させてくれる。	51.9% (-1.6%)
11 私は、国分高校の授業に満足している。	63.8% (-1.9%)

・他の項目に比べて、授業・学習に関する項目（4～12）での肯定感が低いのは例年の傾向である。また、3年生が授業・学習に関する全項目で肯定感が高いのも毎年の傾向である。主体的・能動的に学習に取り組むことによって初めて、授業や学習全般に対する健全な批評精神や様々な気付きが出てくると思われる。3年生の学習全般に関する肯定感は、3年になって主体的な学習習慣が身に付き始めた（項目5）ことにも起因しているのではないか。一方1年生と2年生には逆のことが当てはまる（項目5）。従って、特に1年次、2年次で学習習慣をしっかりと確立させる方策、または学びに対する意識を高揚させるような方策が最大の課題である。その点が解決されれば、学習に関する全体的な肯定感もいくぶん高まるのではないか。

・授業・学習に関する項目の中では、「基礎学力の定着度」(項目 8) が最も高く、「応用力の伸長」(項目 9) と「知的好奇心の満足度」(項目 10) が低い。先生方の授業改善により、大多数の生徒にとって、理解できる授業になっているものと思われる。理解できる授業に加えて、成績上位者がいる程度満足できるような授業改善も望まれるのではないか。生徒全体の学力向上を目指すとともに、成績上位層をいかに伸ばすか、課題である。

・肯定的回答の低い項目として「5」、「10」があげられるが、「自主自律」つまり自ら学ぶという姿勢で高校生活を送ってほしい。

進路面について

12	私は、自分の進路を意識して勉強している。	68.9%(-2.2%)
13	国分高校は進路指導に力を入れている。	73.5%(-6.9%)

・「私は、自分の進路を意識して勉強している」(項目 12) は、昨年とほぼ同様で、学年が上がるについて高い比率となっている。2 学年の数値が向上していくように工夫をしていきたい。

・「国分高校は進路指導に力を入れている」(項目 13) に対して、各学年 7 割以上の生徒が肯定的な回答をしている。しかし、昨年度と比較すると、特に 1 学年で肯定的な回答が 10%以上減少している。昨年度の取り組みと異なる部分を中心に、今後の進路指導プログラムを検討していきたい。

生徒指導・生活面について

2	国分高校は、私たちの教育活動にふさわしい環境である。	81.7%(-4.2%)
3	国分高校の学校行事・生徒会行事は充実している。	84.4%(-4.2%)
14	私は、国分高校の校則や社会のルールを守って行動している。	92.3%(-1.3%)
15	国分高校は生徒指導をしっかり行っている。	86.5%(-1.3%)
16	先生方は、生徒の相談に親身になって応じてくれる。	80.5%(-4.9%)
17	国分高校のホームルーム活動は活発である。	73.2%(-6.2%)
18	国分高校の部活動は活発である。	90.9%(-1.4%)
19	私は、梨香祭や合唱祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる。	92.2%(-0.7%)
20	私は、部活動に積極的に取り組んでいる。	82.4%(-2.4%)
25	国分高校に学校相談窓口があることを知っている。	49.8%(-0.9%)

・生徒指導部に関連する項目に関しては、例年通り肯定的回答が多く、例年と変わらず 80%を超えている。「校則や社会のルールを守って行動している」(項目 14)、「部活動は活発である」(項目 18)、「学校行事に積極的に取り組んでいる」(項目 19)では、これも昨年同様、肯定的回答が 90%を超え、生徒に真面目かつ意欲的に学校生活を送る姿勢が定着していると思われる。

・「先生方が相談に親身になって応じてくれている」(項目 16) において、1 学年では 80%を割っているが、2, 3 学年では 80%を超えているところから、中学校から高校・大学と自分で判断し、行動することへの変換時期と推察されるが、次年度以降に注目していきたい。

・「学校相談窓口があることを知っている」(項目 25) については、肯定的回答が約 50%と半数である。様々な場面で周知徹底を図りたい。多くの職員が連携し、様々な場面で生徒を見守る体制を築いていきたい。

清掃・健康管理について

21	私は、きちんと清掃活動を行っている。	92.9% (-0.3%)
22	私は、校内におけるゴミの分別に協力している。	91.7% (+1.4%)
23	私は、自分の健康管理に十分留意している。	89.3% (-0.4%)

・清掃活動、ゴミの分別、自己の健康管理において肯定的回答が多く、意識の高さがうかがえる。しかし清掃など、教師側から見て決して十分とは言い難く、まだまだ努力の余地が残されている。よって今後、一層の働きかけをしていきたい。

24	私は、国分高校に入学してよかったと思う。	87.2% (-2.1%)
----	----------------------	---------------

・学校生活に順応して、日々の学校生活を送っている生徒が多いと思われる。およそ9割弱の生徒が学校生活を前向きに捉えられている。部活動や学校行事のポイントが高く、学校生活の柱となっていることがわかる。これらの背景には、勉強のみならず、部活動や学校行事などに積極的に取り組んでいる生徒の姿があり、またそれらを支えている教職員があつてのことだと思ふ。学校は生徒が期待している環境を維持できていると判断できる。

2 保護者対象アンケート結果から

回答率に着目すると、この3年間の数値は、70.1%→73.7%→75.0%と、徐々に回収率が上がっている。保護者のご協力に感謝したい。

全般について各学年より

〈 1 学年 〉

概ね生徒と同様の回答である。保護者の学校行事への参加やPTA活動などへの評価も高く、授業も含め、入学させて良かったと感じている保護者が多い。

〈 2 学年 〉

学校教育方針など、おおむね各項目に於いて肯定的な回答であった。

家庭学習習慣ができておらず、学習態度にも低いと感じられている回答が多かった。大学入試制度が変わることにより、不安や心配が増えている現状で、思いが伝わってきている。今年度実施した進路講演会など、次年度も丁寧に実施していく必要があると考える。

〈 3 学年 〉

概ね高い満足である。ほとんどの保護者は学校の様子を直接感じられる場面は少ないと思われ、生徒が家庭で話す内容からこのような結果となったのではないかと推察される。

学校から家庭への情報伝達という観点で見ると、

1	学校は教育方針を分かりやすく伝えている。	75.5% (-8.3%)
5	学校は家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている。	62.9% (+1.9%)
6	授業公開等の学校行事には気軽に参加する雰囲気がある。	90.2% (+1.5%)
7	学校のPTA活動は活発に行われている。	75.7% (+0.6%)
19	学校のWebページをよく見ている。	28.9% (+0.1%)
20	学校に学校相談窓口があることを知っている。	31.9% (+1.6%)

- ・「授業公開等の学校行事には気軽に参加する雰囲気がある」(項目 6)については、各学校行事へ参加する保護者が多くおり、保護者の学校行事への参加が、数値の高さにつながっていると考えられる。
- ・肯定的回答の低いこととして、項目 5, 12 があげられる。まず、親と子供が Face to face のコミュニケーションをもっと取るべきである。また、保護者は総務部から出している年間行事計画をもっとチェックしてほしい。
- ・「学校相談窓口があることを知っている」(項目 20) では肯定的回答が 30%程で、7割の保護者が知らないという現状である。相談の必要を感じていない生徒が保護者に伝えていないものと思われるが、学校の体制として、周知を図り、問題が生じたら即座に対応できる体制をより強固に築きたい。

学習面に対する評価では、

11	学校では学力向上に向けた授業が行われている。	66.5% (-6.2%)
12	授業以外での学習の時間を確保し、自主的に学習する態度ができています。	59.4% (-1.8%)

・授業・学習に関する項目(10~13)は、僅かながら全ての項目で昨年度比を下回っている。最大の課題である学習習慣が確立されていないことについては、生徒と同様の結果である。同様の結果ながら、生徒の意識に比べれば、保護者の生徒の学習活動に対する要求度は、さほど高くないのではないか。(別の見方をすれば、勉強だけでなく、部活動や特別活動(項目 3, 4)等、バランスよく頑張してほしいという意識の表れか。)

進路面については、

10	1年から3年までの教科・科目は子どもの進路実現に対応したものになっている。	72.4% (-9.1%)
13	学校は生徒の進路目標の達成に向け、適切に指導している。	69.8% (-1.7%)

・項目 10 について、比較的肯定的な意見が多いが、1, 2年の数値が昨年度より1割近く下がり、逆に3学年で上がっている。学校の科目は変わらないので、大学入試改革に向けて保護者の不安が数値に表れているのではないか。その不安を払拭する信頼関係を築いていくことが重要なのではないか。

・項目 13 について、昨年度と比較すると、肯定的な意見が3学年では大幅に増加し、2学年で大幅に減少している。原因としては、項目 10 同様に入試の先行きがわからないことで、保護者の不安が増大していることがうかがえる。

生徒指導・生活面・個別相談について

4	学校の部活動は充実したものになっている。	75.2% (-5.7%)
8	学校の先生は生徒に対し親身になって指導している。	76.9% (-4.0%)
9	子どものことで困ったことがあった場合、先生と気軽に相談できる。	65.5% (-4.9%)
14	基本的生活習慣が身についている。	82.4% (-1.5%)
15	学校は日常的に頭髪・服装等きめ細かい生徒指導が行われている。	75.9% (+10.8%)
16	学校は子どもの悩みや問題に適切に対応している。	67.8% (-4.1%)

・生徒対象アンケートと同様に肯定的回答が多い。数値的にも昨年とほぼ同様であるが、全体的に数%減少していることが気になる。特に「部活動が充実したものになっている」(項目 4)では肯定的回答が5.7%減と最も多い。生徒、保護者の部活動に対する考えの多様化が影響していると考えられる。従来のように生徒が高い目標を持ち、それに向かって顧問とともに努力していく理想的な

形になってほしい。

・「学校は日常的に頭髪、服装など、きめ細かい生徒指導が行われている」(項目 15)では肯定的回答が 10%以上高まった。各学年できちんと生活指導をしてきていることへの評価と思われる。

校内美化・環境整備について

17	学校は清掃美化や環境整備が十分に行われている。	73.1%(-0.6%)
----	-------------------------	--------------

・清掃美化や環境整備において 73.1%と、生徒に比べて肯定的回答が少ない。設備、施設の老朽化だけではなく、「細かな清掃」という点において不満があるのかもしれない。トイレなど多額の予算を要するものはすぐにといいわけにはいかないが、あきらめずに要望を出し続けていきたいと思う。

全般的には、

2	学校の教育方針について共感できる。	82.8%(-4.8%)
3	私の子どもは、学校が楽しいと感じ、生き生きと生活している。	87.5%(-2.2%)
18	私は、子どもを学校に入学させて良かった。	92.4%(-0.7%)

・「私は、子どもを学校に入学させて良かった」(項目 18)のこの3年間の数値は、92.9%→92.8%→92.4%と満足度が高く、本校への十分な評価を感じることができる。

・アンケート結果を真摯に受け止め、改善すべき点は学校組織で改善を進めていく。保護者との関係については、必要に応じた十分な説明や対応は極めて重要で、保護者との信頼関係がなければ教育活動が十分に機能しない。そのための日常的な努力が必要である。

3 教職員対象アンケート結果から

教職員アンケートは回答数が少ないため、パーセントだけを見て比較分析するよりも何名が肯定的で、何名が否定的な回答を出しているかを踏まえての分析が必要とのことから、集計結果のグラフの数値は人数で示してある。

学校経営に関する項目では、

1	本校の教育活動の情報提供を適切に行っている。	98.3%(+1.6%)
2	本校は地域社会に開かれた学校づくりを行っている。	93.3%(-6.7%)
3	本校は学校相互、地域社会、関係機関との協力体制が確立されている。	90.2%(-3.3%)
7	学年経営や学級経営を行うに当たって、その方針について保護者に理解が得られている。	90.2%(+0.2%)
8	本校の教育課程は生徒の実態やニーズに即したものになっている。	76.7%(+6.2%)

・「情報提供」(項目 1)については、昨年度よりも学校ホームページや一斉配信メールを多く活用したので、微増となった。

・教育課程に関する項目 8 で、昨年度より肯定感が高まった。今年度入学生より教育課程を一部改定したが、改定が生徒の現状・実情に沿った適切なものであったという評価もできる。

生徒に関する項目では、

4	本校生徒は、いきいきと学校生活を送っている。	73.8% (-4.9%)
10	本校生徒の授業態度は良好である。	91.8% (+6.6%)
11	本校生徒は基礎基本を身に付け、学力が向上している。	61.0% (+3.6%)
12	本校生徒は自学自習の習慣が身につけており、学習意欲が高まっている。	55.9% (+6.8%)
14	本校生徒は、基本的な生活習慣が身につけている。	62.3% (-6.6%)
15	本校生徒は、自他の人格を尊重し、他人に対する思いやりの心が育っている。	75.4% (-13.1%)

・生徒の内面に関する項目が低くなっている。行事など、ただ楽しめればよいと考えるような生徒が増えてきているのではないかと。説明会等では、行事等の良い部分も残しつつ、ルールを守り、授業や部活動にまじめに取り組む生徒を求めていることを積極的にアピールすべきであると考え

る。
・進路指導や生活指導に、今後慎重に検討していく必要がある。友人関係など、丁寧に取り組んでいくことが大切だ。

教職員自身の項目では、

5	学年会は教育活動の計画・実践・評価の場として有効に活用されている。	84.7% (-1.7%)
6	私の学年では、生徒一人一人を大切にしている指導が実践されている。	91.5% (+3.2%)
9	生徒の基礎基本の定着や学力向上に向けて、授業法の改善や工夫を行っている。	96.6% (+1.5%)
16	本校の教職員は、共通理解のもと生徒指導に取り組んでいる。	70.5% (+4.9%)

・授業・学習に関する項目（9～13）では、全ての項目で昨年度比を上回っており、特に「授業改善・工夫」（項目9）に関しては大変高い数値である。これは、生徒の「基礎学力の定着度」における高い肯定感とも合致しており、わかる授業が実践されていることを示している。ただ、生徒対象の項で言及したとおり、成績上位者に対する課題もある。また、生徒の学習に対する取り組み状況（項目10）についても、高い評価である。生徒・保護者・職員、三者にとっての最大の課題は、やはり自学自習・学習習慣の確立（項目12）をいかに推し進めるか、である。

・「共通理解のもと生徒指導に取り組んでいる」（項目16）では肯定的回答が約5%上がり、前年度より上昇を続けていることは喜ばしい。しかし、「本校生徒は基本的な生活習慣が身に付いている」（項目14）、「自他の人格を尊重し、他人に対して思いやりの心が育っている」（項目15）では、肯定的回答がかなり減少している。スマホ世代による、個人主義的な価値観、周囲との関係の希薄化が進んでいるのは事実である。学級活動、部活動などあらゆる場面で、規範意識や協調性、他を思いやる心の大切さを根気強く指導しなければならない。

進路指導について

13	本校では1学年から発達段階に即した系統的・計画的な進路指導が展開されている。	86.2% (+5.9%)
----	--	---------------

・項目13では86.9%もの先生方が進路指導計画に対して肯定的な回答をいただいている。今後とも先生方のご協力の下、社会や入試の変化に即して生徒に合った進路計画を立てていきたい。

それ以外の項目では、

17	部活動は本校の教育目標を達成する上で、大きな比重を占めている。	86.9%(+4.9%)
18	生徒会活動(生徒会行事)は本校の教育活動の活性化に結びついている。	82.0%(-1.6%)
19	本校では生徒が怪我や事故のない学校生活を送ることができるよう、健康・安全指導が適切に行われている。	86.9%(+0.0%)
20	国分高校の校舎内の清掃等は行き届いている。	68.9%(+16.4%)

・「適切な健康、安全指導」(項目 18)という点で、昨年から 86.9%を維持している。防災・避難訓練やAED講習会などで市川消防署との連携や、県学校安全保健課との連絡・協力体制はできており、この数値は業務上、妥当性があるものとする。

・清掃活動(項目 20)においては 68.9%と、昨年度より 16.4%増ではあるが、まだ低い肯定的回答となっている。清掃については生徒の自己満足とはならないように指導していきたい。

全般について

・各分掌・科・部活動等、仕事をいかに減らし、効率よく時間内に仕事を仕上げるかが最重要課題である。Work smart!